

群馬県中小企業団体青年協議会 夏季研修会・暑気払い

群馬県中小企業団体青年協議会（諸田宏会長）は、8月28日、高崎市・ホテルグランビュール高崎において、夏季研修会及び暑気払いを開催した。

研修会では、講師に一般社団法人全日本講師連盟顧問・森真一氏を迎え、「中小企業経営者に求められる危機管理」をテーマに講演を行った。



森真一氏

森氏はまず「コンプライアンスは直訳すれば『法令順守』だが、近年ではコンプライアンスという言葉に含まれる意味は拡大しており、法律を守っているだけで良いという時代ではなくなった」と前置きし、「現在では法律を守ることが当然のことであり、コンプライアンスの基準には、道徳的な配慮まで含まれる」と述べた。

次に、危機管理について「危機

管理とリスクマネジメントの違いは、リスク発生後の行動と発生前の行動の違いである。リスクマネジメントを折り畳み傘とするなら、危機管理は長傘である。雨が降る可能性を見越して折り畳み傘を持ち出すことがリスクマネジメント、雨が降っている状態で長傘を差すことが危機管理にあたる」と説明。



講演会の様子

最後に、「危機管理の対応において、経営者には浮世離れしない時代認識を持つことが求められる。さらに、より広義の意味合いを持ったコンプライアンスを守る

ために、大勢の人から意見を求めることが必要となる。また、コンプライアンス違反等のリスクが発生した場合には、経営者が先頭に立って謝罪等の対応に努める『誠実さ』を示すことが社会から評価される危機管理となる」として講演を締めくくった。

研修会終了後、暑気払いに移り、諸田会長の挨拶の後、株式会社商工組合中央金庫前橋支店長・櫻井浩嗣氏の乾杯により開宴。参加者の活発な交流・懇親が大いに図られる中、盛会裡に終了となった。

